

### 3. とうもろこし (スイートコーンを含む)

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	散布	収穫 30 日前まで	3 回以内	とうもろこし (子実)
			収穫 7 日前まで	3 回以内	未成熟とうも ろこし

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アクタラ顆粒水溶剤	散布	収穫 7 日前まで	2 回以内	未成熟とうも ろこし
3	アグロスリン乳剤	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
15	カスケード乳剤	散布	収穫 7 日前まで	2 回以内	未成熟とうも ろこし
9	コルト顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	3 回以内	未成熟とうも ろこし
1	スミチオン乳剤	散布	収穫 7 日前まで	4 回以内	
1	ダイアジノン粒剤 5	散布	収穫 60 日前まで	2 回以内	とうもろこし (子実)
		散布	収穫 14 日前まで	2 回以内	未成熟とうも ろこし
1	デナボン粒剤 5	散布	雄穂抽出期～雌穂抽 出期 ( 但し収穫 21 日前まで)	2 回以内	未成熟とうも ろこし
3	トレボン乳剤	散布	収穫 7 日前まで	4 回以内	
28	プレバソンフロアブル 5	散布	収穫前日まで	3 回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫 14 日前まで	3 回以内	とうもろこし (子実)
		散布	収穫前日まで	3 回以内	未成熟とうも ろこし

・殺虫剤 (参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6	アフーム乳剤	散布	収穫 3 日前まで	2 回以内	未成熟とうも ろこし

・忌避剤 (参考農薬)

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
キヒゲンR-2フロアブル	塗沫処理	は種前	1 回	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 「とうもろこし」の適用登録では「とうもろこし(子実)」及び「未成熟とうもろこし(スイートコーン)」のいずれにも使用できる。なお、「とうもろこし」は「穀類」に分類されるが、「ヤングコーンまたはベビーコーン(とうもろこしの幼果を収穫するもの)」は「野菜類」になるので注意する。

注4) アクタラ、アフーム、カスケード、コルト、デナボンは未成熟とうもろこし(スイートコーンを含む)の登録である。

注5) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
黒 穂 病		1. 発病株は孢子が飛散しないうちに切り取って焼却するか土中深く埋却する。 2. 発病の甚しい畑は3年間ぐらい他作物に転換する。	
すす紋病	全期	1. 窒素、加里肥料及び堆肥を十分施す。 [参考農薬] 1. トリフミン水和剤2,000倍液を10a当り100~300ℓ散布する。	1. 8月の気象が低温多湿の年に発病が多い。 2. 8月中旬早期に肥切れすると発病が多い。
ごま葉枯病		1. すず紋病の耕種的対策に準じる。	1. 高温多湿の年に発病が多い。 2. 早期に肥切れすると発病が多い。
倒伏細菌病		1. 無病種子を用いる。 2. 被害の著しい株は抜き取って焼却する。	1. 排水の悪い圃場に発生しやすいので、排水に務める。 2. 昆虫の食害による伝染もあり、病勢を進展させる原因となるので、アワノメイガなどの防除を徹底する。
カラス・ハト (は種~発芽時の鳥害忌避)	は種前	[参考農薬] 1. キヒゲンR-2フロアブルの原液を乾燥種子1kg当り20ml、塗沫処理しては種する。	1. 塗沫処理後の種子は風乾後には種する。 2. 粘度が高いため良く振ってから使用する。 3. 水産動物に対して影響が強いため注意する。
アワノメイガ	雄穂出穂始期 ~揃期	1. アグロスリン乳剤、スミチオン乳剤、トレボン乳剤の1,000倍液、カスケード乳剤、プレバソフフロアブル5の2,000倍液のいずれかを10a当り2000散布する。 2. ダイアジノン粒剤5、又はデナポン粒剤5を10a当り6kg散布する。	1. 粒剤は株の上から芯部や葉にかかるように均一に散布する。 2. ダイアジノンは葉身の基部に部分的に薬剤が集まると葉害を生ずるおそれがあるので、1ヶ所に固まらないよう均一に散布する。また、葉の水滴が葉害を助長するため、降雨直後や結露がある場合は散布しない。 3. 発生が多い場合は絹糸抽出期に追加防除を行う。 4. アグロスリン、カスケード、トレボンは蚕毒及び魚毒に、プレバソフは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 5. プレバソフは水産動物(甲殻類)に影響があるので注意する。
アブラムシ類	雄穂出穂期 ~揃期	1. アグロスリン乳剤2,000倍液、アクタラ顆粒水溶剤3,000倍液、コルト顆粒水和剤、モスピラン顆粒水溶剤の4,000倍液のいずれかを10a当り2000散布する。	1. 葉裏にもかかる様にしていねいに散布する。 2. アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、アクタラ、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. コルトは水産動物(甲殻類)に影響があるので注意する。
オオタバコガ	絹糸抽出期	[参考農薬] 1. アファーム乳剤1,000倍液を10a当り2000散布する。	1. アファームは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. アファームは魚毒に注意する。